



滝ヶ原は小さくても豊かな農山村です。ここには、自然と文化、人々の暮らしを体感していただけるがたくさんあります。

地域と日本さらに世界の方々とお友達となり、楽しく学びあい新しい発見をして、「住み続けられる地域づくり」をしていくことが私たちの喜びです。そんな願いを込めて冊子にしました。

里まなび 山あそび

滝ヶ原の人々の暮らしを訪ねて

2020年(令和2年)10月22日
里山自然学校こまつ滝ヶ原



滝ヶ原 石切り場

学校長 川畠 平一
編集担当 笹原 時博

生水 茂	山下 豊	山下 信子
北出 高嗣	内木 洋一	加藤 章子
福岡 大平	谷山 聡子	野村 進也
井上 尚子	花島百合香	
滝ヶ原町内会長 東 修司		

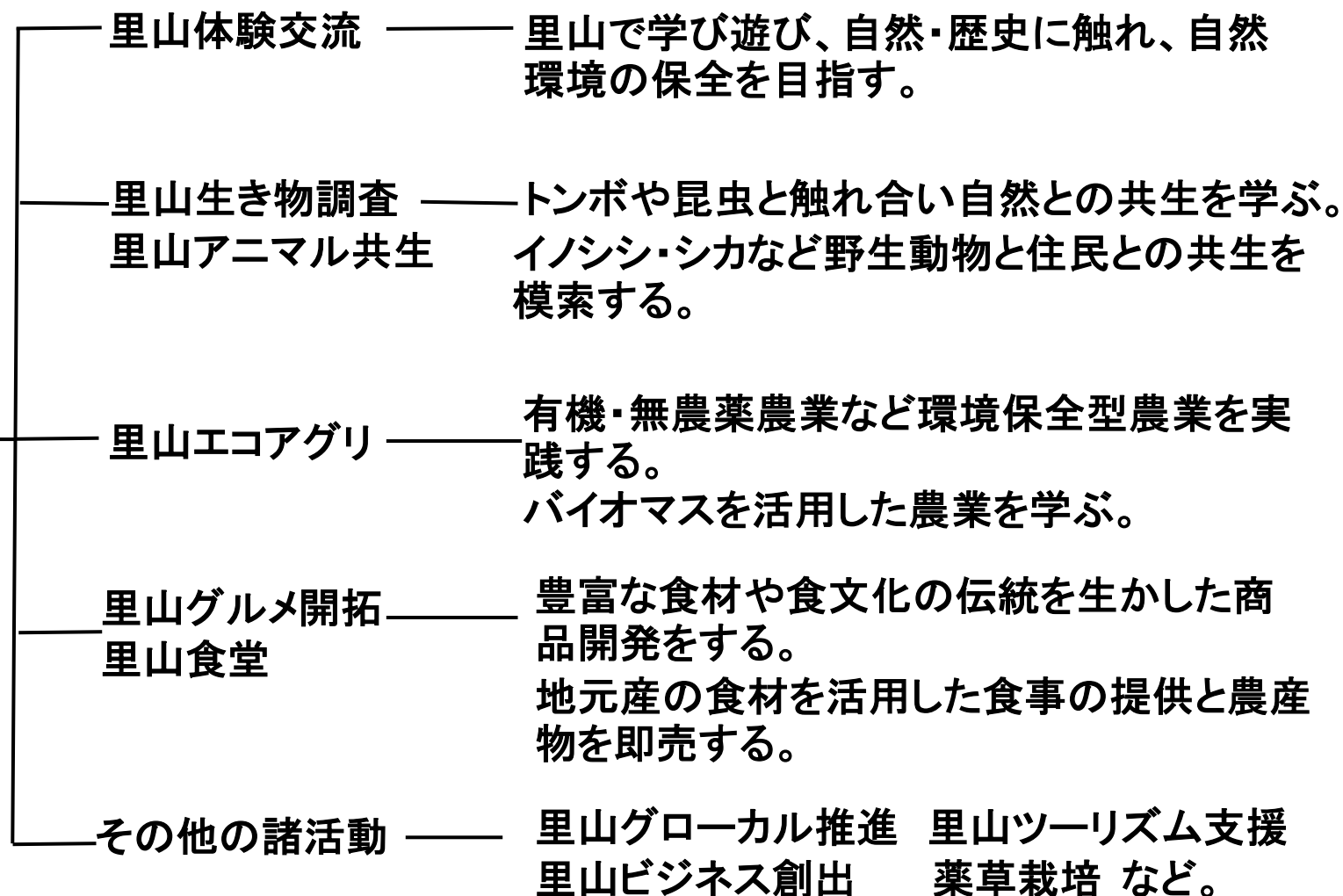
はじめに 滝ヶ原里山自然学校(SATOYAMA ECO SCHOOL)の活動

里山を外国語に翻訳するのは難しい。
SATOYAMA -Traditional Rural Landscape
では言い表せない多くの活動があります。
SATOYAMA はそのまま世界語として
発信されています。

日本の原風景が残る
信仰と歴史と豊かな
自然に囲まれた里山



鞍掛山と田園風景



詳細: 付録自然学校塾活動一覧表を参照ください。

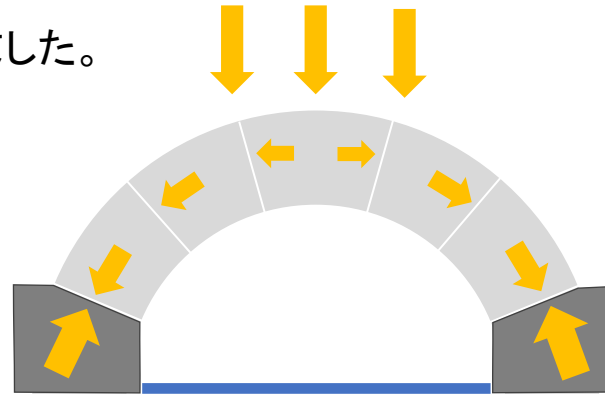
1-1 「滝ヶ原石」の石切り場と1地区に5橋も現存するアーチ型石橋

石橋は何故落っこちないのでしょうか？

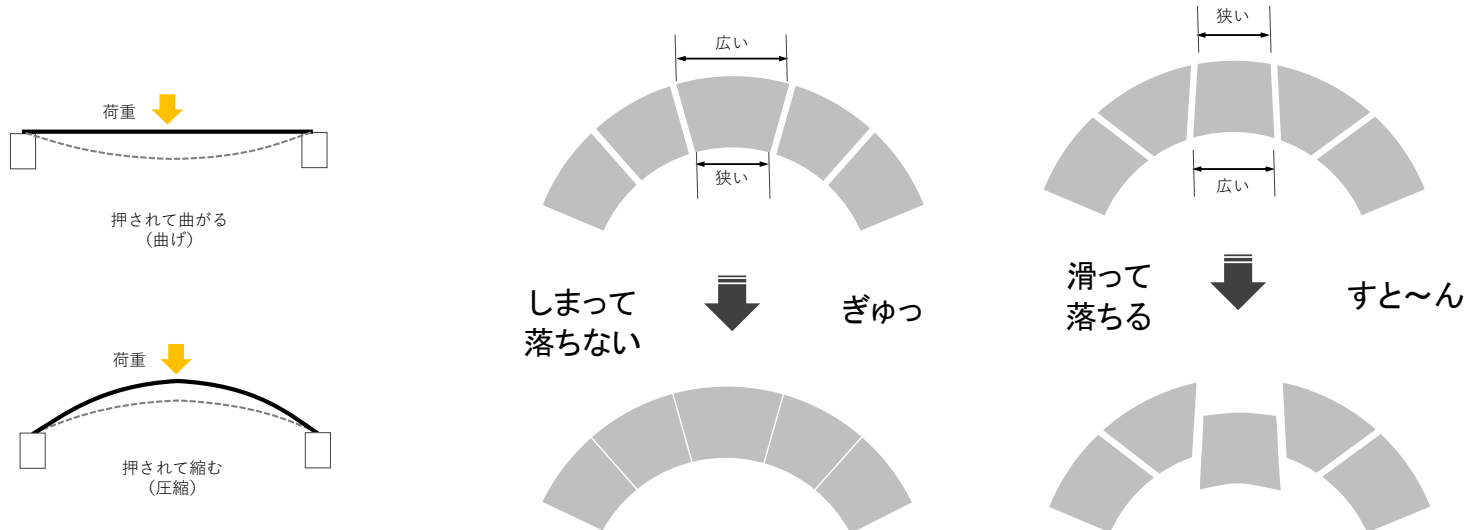
石橋について研究されている亀田萌理さん
(石川工業高等専門学校)に解説していただきました。

上から荷重がかかると石に圧縮力が働きます。石同士が強く押し合うことで、摩擦力が大きくなるため橋は落ちません。

石橋は耐久性が高く、架設から100年以上経つものも現役で利用されています。滝ヶ原の自然の中に溶け込み、美しい景観を作り出しています。



石切り場 と石橋



外国の人たちと一緒に石橋を楽しんでいます

1-3 クエスチョン 滝ヶ原の碧玉は、どこを通過して小松駅周辺にきたのかなあ？

弥生時代(約2400年前)には小松駅周辺に集落があったと聞きましたが、どうして滝ヶ原から小松まで碧玉(へきぎょく)が伝わったのですか？ 川を流れて来たんですか？ 小松市の冊子「珠玉と歩む物語」を見てもよくわかりませんでした。そこで、埋蔵文化財センターの下濱貴子副所長を訪ねました。ていねいに教えてくださいました。

川を流れてきたことはないと思いますよ。だって、滝ヶ原と八日市地方(ようかいちじかた)遺跡の中央を流れる川は直接つながってはいないし、万が一流れてきたとしても転がって来たら丸くなっているはずですよ。また、そこには、八日市地方と滝ヶ原とは潟や川を通じて交流・流通があったと考えています。米作りを行う平地の民と山の恵み(どんぐり等)や狩猟を主としていた山の民との物々交換があったのではないのでしょうか。保存食として米は貴重な食べ物でした。一方、山(那谷・菩提・滝ヶ原)では石英を主成分にしたきれいな碧玉やメノウ、玉づくりの際に使用する砥石に適した凝灰岩もあります。これらの石は露頭(地面の表面)近くの小川に現れていたんです。当時の人々には、きっと、歩いて来るよりも、おだやかな水の流れを小さな舟(カヌーのような小舟)を使って行き来したのでしょう。

ちょうどいい時に来られましたね。今、「白いお米とミドリの玉」という絵本を作ったところです。みなさんに見せてあげてください。まさに、質問のあった流通について扱っています。まもなく英語訳を作る計画もしています。

～話は続きます～ さらに、小松から鳥取を経て九州佐賀まで船で海を渡り、北部九州(現在の佐賀県や福岡県、長崎県)は中国大陆と直接交易をしていました。壱岐や対馬を経て朝鮮半島、靉島(めくど)には、九州でつくられた土器が持ち込まれています。島づたいの海の道が一番近かったでしょう。また、海の向こう大陸から伝わった鉄の斧や ヤリガンナ(木を削る道具)も 八日市地方で発見されました。

里×(山+川+海)=里山、里川、里海

単純な質問から、なんと大陸との交流まで古代の人々の暮らしまで知ることができました。今、里山についての活動が各地で行われていますが、ふっとこんな数学が浮かんできました。ロマンですね。



碧玉の流通地図

小松市埋蔵文化財センターの許可を得て掲載

2-1 鞍掛山(舟見岳)は江沼郡からの遠望がよく似合う

(江沼三山・三川・三湖をめぐる見どころいっぱいのゆっくりツアー)

南加賀地区は、昔は江沼郡(当初はエヌ)と呼ばれていました。
山は…鞍掛山・富士写ヶ岳・大日山 の三山
江は…大聖寺川・動橋川・梯川 の三川
沼は…芝山潟・今江潟・木場潟 の三湖 に代表されます。
鞍掛山を遠くから眺めると、小松からは山の側面が見えますが
橋立・大聖寺からは馬の鞍そっくりの鞍掛山がよく似合います。

そこで名前を付けてみました。

百名山ライン…大聖寺・山代・勅使法皇山古墳をつなぐ
北前船ライン…橋立・片山津玉造遺跡・動橋川をつなぐ
碧 玉ライン…木場潟・梯川・八日市地方遺跡をつなぐ

(詳細前頁参照)

深田久弥 昭和二年九月石川県大聖寺町の体育
協会徒歩部発行「故山」第一輯

鞍掛山(或るは舟見岳478米)について一言する。
鞍掛山は大日、富士写と共に江沼三山と称へられ、
高さこそ低いがその模型的に整齊した山容は普く
衆眺を集めてゐる。峯は二つ見えるが向かって左
が本峰で三角点もここにある。

石川県江沼郡記 山嶽 鞍掛山

郡中高山の一にして其の形恰も鞍掛の如く郡の東
端那谷村に聳え、東谷村及東谷奥村に跨る。一に
舟見岳と言ふは漁舟の海上より目標とする因る
海拔二千三百尺を有す (山下豊さん調査)



畔道を散歩しながら眺める美しい風景
と新幹線工事で分断された悲しい風景



北前船の里資料館 山田洋子さんにお聞きしました。

航海を終わった北前船は淀川の下流木津川口につないで置きました。
船喰い虫は淡水にいないからです。橋立の船乗りたちは、敦賀を経て
大阪まで徒歩で行きました。荷物を積み瀬戸内海・九州を経て橋立に寄
港しました。船の安全を祈って奉納した船絵馬のおかげで無事、二つの
こぶの鞍掛山を遠眼鏡で見た時、どんなにホッとしたことでしょう。当時
は橋立には大きな港はなく、沖で停船しハシケで上陸、半日休んでまた
北へ向かったのです。大阪みやげは、かあちゃんには雪駄、子供には
金平糖、はやつけ火(マッチ)もあったらしいです。

西廻り航路を開いた河村瑞賢、司馬遼太郎の「菜の花の沖」の主人公
高田屋嘉兵衛、北の果て利尻をハイキングした時に見つけた橋立の船
乗りのお墓など話が弾みました。



2-2 クェスチョン 鞍掛山(KURAKAKEYAMA)を愛するひとびと



鞍掛山環境整備 町内会ボランティア活動

永年鞍掛山と共に歩まれて来られた山下ご夫妻にお聞きました。子供の頃から遊んでいる鞍掛山と近隣の山を結んで“僕のまち、私のまち、ふるさと再発見”という活動を20歳の頃に青年団で始めたのがきっかけかな。山への感謝と社会への貢献、そして「いいと思うことはやる」という前向きな気持ちで続けて来た。

奥様と5人の仲間も、地元の食材を使った郷土料理、前夜から準備した柿の葉寿司をアフリカの青年たちが喜んでくれたのもいい思い出だと頑張っておられた。これからも、グリーンツーリズムとしていただいたお金を自然保護活動へと循環させていくことにも町内会・婦人会のメンバーと一緒に挑戦したいと思っている。

鞍掛山いろいろ いくつ答えられるかなあ？ (出題者 山下 豊)

Q1 鞍掛山の標高はどれくらいでしょう？ ① 634m ②478m ③328m ④3193m

Q2 全国に鞍掛山は21ヶ所あります。一番高い山と一番低い山は

山梨県の鞍掛山 2037m 秋田県の鞍掛山 89m ①○ピンポン ②×ブー

Q3 鞍掛山の「トンボの楽園」で観察できる世界一小さいトンボは？

① オニヤンマ ②イトトンボ ③ハッチョウトンボ ④ハラビロトンボ

Q4 鞍掛山は北前船の航海の目印になり「舟見岳」とも呼ばれる。 ①○ピンポン ②×ブー

滝ヶ原賛歌
作詞 東省吾
作曲 不詳
編曲 山口順一郎
鞍掛山から出た水は
ぼくらの村を通る時
李(すもも)の花び
ら
乗せて行つ



外国の友達と登山

3-1 クエスチョン

里山食堂の郷土料理はおいしかったですか？



柿の葉寿司



新緑の柿の木

ビタミンCやタンニン・ルチンなどを含む柿の葉は、血圧安定や高血圧予防などに効能がある。殺菌作用があることも知られていた。香り豊かな柿の葉で包むことにより、食品に柿の葉の香り移るという効果もある。ご飯やおかずなどを包んで農作業や旅に携行するために使われてきた。祖先の知恵が一杯詰まった伝統食です。

アンケート

私たちは自信を持っておいしい食事を楽しんでいただいています。みなさんの感想を聞かせてください。

- A ビタミンなど栄養が詰まっている。
- B 地元の新鮮な食材(山の幸、海の幸)を使っている。
- C 昔の人々からの伝統が今も生きている。
- D 地元の人々の温かい心がこもっている。
(おもてなしのこころ)
- E その他、特に印象に残ったこと



フィリピン イフガオの青年達と昼食

里山食堂 山下信子さんグループから

私たちは、新鮮な旬のものをその地で味わっていただけるよう手づくり料理に頑張っています。若い人達へのバトンタッチがおばあちゃんメンバーの願いです。まさに「**地旬地味**」(笹原造語)と言えます。

参考:地産地消

- 地域で生産された様々な生産物(農産物や水産物)をその地域で消費すること。
- ・消費者と生産者の距離が近いので鮮度がよい。
- ・地域の伝統的食文化の維持と継承。
- ・農水産物の輸送にかかるエネルギーを削減できる。(フードマイレージ)

3-2 春の田植え と 秋の稲刈り / 桜の花見 と 秋祭り



小学生も一所懸命のどろんこ田植の風景



小松在住外国人も参加した稲刈りの風景

日本の国の花は桜です。みなさんの国の花はどんな花ですか？

桜は春になって山から降りてきた田の神様が宿る木です。桜の咲き方でその年の収穫を占ったり、桜の開花に合わせて種もみを蒔く準備をしたりしていました。「サクラ」の「サ」は田の神様、「クラ」は神様の座る場所という意味です。桜のもとで田の神様を迎え、豊作を願って、料理や酒でもてなし、人も一緒にいただくことが花見の本来の意味だったのです。



浮世絵 歌川広重 1834年 花見の宴



早乙女 さおとめ 早苗 さなえ
他にも「さ」の付く季節の言葉は？



さくら さくら やよいの空は 見わたすかぎり……(楽譜別紙)

どんどんひやらら どんひやらら 朝から聞こえる笛太鼓……

山の神 海の神 ことしもほんとにありがとう…… (北島三郎)

3-3 和食の原点 郷土食を里山食堂で楽しむ

永年里山食堂を続けて来られて、私たちが楽しいひと時を過ごさせていただいている山下信子さんと仲間のみなさんがお茶タイムしておられました。ちょっとお邪魔しました。

食堂を始めてもう9年になる。廃舎になってしまった旧保育所で地元で作った野菜を売れないかとの話があり、近所の主婦たちが集まって、トマト入りのカレーを作ったのがきっかけかなあ。東京(青山や浅草)に大根や・蕪・黒豆などの野菜を販売するファーマーズマーケットに行ったこともある。この時に、「地元の魂が入ったストーリーが大事だ」と教わった。沢山の方々にお世話になりながらスキー大会や木場潟菖蒲祭などのイベントの時には、おでんや柿葉寿司などの出店も出した。(指導いただいた方々の名前がメモしきれないほどでした。

一汁三菜にご飯漬物が食の基本。季節に応じて地元の採れたものを持ち寄り工夫している。山には、ワラビ・ゼンマイ・カタハ・コシアブラ、畑にはカブラ・キャベツ・ミョウガ、クロマメ、秋にはクリ・ギンナン・キノコ・アケビ・ユズ、など自然の恵みがいっぱいある。同じようなおかずばかりだけれども、昔からのお客さんが来てくれるのがうれしい。

外国の青年達には柿の葉寿司が完食したことを思い出す。ここまでやってこれたのは、「うちの旦那さんが力を貸してくれているからこそ続けられる」と遂にオノロケ？まで聞かされてしまった。ごちそうさま！、

山下信子さんからのメッセージ

グループは4人で年齢は少し高いですが何とか元気に月2回ほど、経験と伝統的な食文化も生かし健康食をと頑張っています。この間、多くの人たちのご指導、ご協力をいただけてきました。地産地消の考え方でなるべく地元産の旬の食材を使い、皆さんの美味しいという言葉で活力をいただき、山菜や手つくりの農産物の販売も合わせ開いております。今後ともよろしくお願いいたします。



和食をユネスコ無形文化遺産登録に努力された熊倉功夫さんの講座がNHKラジオで半年間放送されました。テーマは「自然の尊重、和食文化の保護・継承」です。

最初、「日本料理」で考えていましたが、料理屋さんのイメージが強く商業主義にとらわれてしまいます。「郷土料理」という言葉もありますが、「郷土食」というように、それぞれの土地にふさわしい食事こそ和食の原点と言えましょう。

地域の新鮮で多彩な食材を大切に、四季折々の自然の恵みに対する感謝の心とこれを大切にする精神、「もったいない」という心に支えられ、地域や家族をつなぐ日本人の生活文化です。

ごはんに合った一汁三菜と漬物によって構成される献立を基本に、正しく箸や碗を使う日本の食習慣です。

日本の風土と歴史に育まれて来た文化に添いながら、海・里・山の恵みをいただく喜びが私たちのエネルギーとなります。

巡り来る季節に応じて、食を学び楽しめるように、いろいろのイベントを行っています。

田植や稲刈りの体験・きのこ観察会やしいたけ菌入れ体験
山菜ウオークと食事交流会・餅つき会





ハッチョウトンボ 滝ヶ原資料館蔵



トンボの楽園のお話し

25年前(1996年)滝ヶ原8景という構想が立ち上がりました。近隣的那谷村と栄谷村に生息しているハッチョウトンボが絶滅寸前でした。幼虫(ヤゴ)を滝ヶ原の湿地に移したのがきっかけです。

きれいな水、葦、草などの管理さらにイノシシが土地を荒らすのを防ぐなど毎日気が抜けないほど難しいですが、みんなで守っています。

夕暮れ時に多くのヤンマトンボが群れ飛ぶ「黄昏飛翔」(たそがれひしょう)を観ることもできます。



石橋とオニヤンマ

横浜市立牛久保小学校4年(当時) 西村瑛人君の力作

瑛人君が受験で猛勉強中なので、弘おじいちゃんにお聞きしました。

幼稚園の頃から夏も冬も滝ヶ原へ遊びに来た。昆虫を観察することや絵を描くことが好きだったらしい。トンボ大好き少年に、自然を愛する心が生まれたのだろう。この絵も、「子供たちにトンボを愛する心を教えてくれた滝ヶ原にお返しだ」と言っていた。

4-2 クエスチョン トンボの世界を訪ねてみよう 多様な生き物たちと共生

Q1:ハッチョウトンボ は世界一小さい？



成虫の体長は
17-21 mm
(飯田昭さん撮影
資料館蔵)

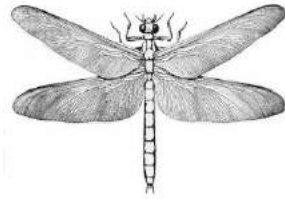
中村桂子 生命誌研究者
NHK講座「生き物から学ぶ社会」より

自然は操作できるものと考えたのは人間のおごりです。今そのしっぺ返しを受けています。機械(自動車)は、設計図があって部品を揃えて不良品を直して完璧なものを早く作ることができます。稲を育てるには、春から秋まで、種を植えて収穫まで、時間がかかって当たり前です。



フィリピンで見つけた
大きなチョウトンボ

Q2:世界一大きなトンボは？(wikipediaより)



メガネウラは、3億万年
前の森に生息していた
原始的なトンボ。史上
最大の昆虫(70cm)

38億年生きて来た生き物には、大きいのも小さいのも、早く走るのも遅いのもいます。人間も生き物で自然の一部なのです。いろんな生き方があっていい。みんな違って面白い。よその国、いろんな文化、多様性を楽しむ気持ちを持ちましょう。みんな仲間、みんなで生きて行こうよ。

Q3:古代、日本のことはトンボ島だった？
トンボは蜻蛉島(あきつしま)といって日本の
美称でした。

『国原は 煙立ち立つ 海原は 鷗立ち立つ
うまし国ぞ蜻蛉島 大和の国は』
広い大地のあちこちに かまどの煙が立ち
のぼる 広々とした水の上には かもめたち
が飛び交うよ 大和の国は美しいよい国だ。
万葉集1-2より



トンボ君と遊ぼう
タケトンボ と里笛

竹部さん 指導



折り紙トンボ

4-3 ビオトープ トンボの楽園 孫と爺ちゃんの会話

孫: ビオトープって何のこと?

爺: 爺ちゃんも良くわからんから、調べてみたんだよ。ギリシア語なんだって。BIO(命)+TOPOS(場所)ということらしい。「生きものが住んでいる家」かなあ。オリンピックもマラソンもギリシアが初めて。爺ちゃんが旅行したら、小学校の運動場みたいなのが残っていたよ。大きくなったら行ったらいいよ。

孫: ふう～ん。トンボの楽園っていつできたの?

爺: 約20年前、平成11年(1999年)に滝ヶ原の人々が始めたんだ。その頃は、町の人も都会へ移って、田んぼを作る人も少なくなってしまった。ハッチョウトンボという日本一小さいトンボを育てるために、お米を作らなくなった田んぼをみんなで協力して草を刈り、池を作り、トンボの家を作ったんだよ。

孫: 長靴はいて、鍬持って、大変な仕事だったんだなあ。うまくいったの?

爺: そうだよ。いろいろのトンボが卵を産み増えて来たんだ。ホラ、「こまついきものずかん」を見てごらん。カエルやチョウチョウなど写真が載ってるね。爺ちゃんの子供の頃、ドジョウやゲンゴロウやホタルがいっぱいいたよ。タニシをみんなで拾い村へ売りに行ってお金をため、それで野球のボールを買ったこともあるなあ。農薬を使うようになって生きものも減って来たんだ。

孫: 僕たちのために、町の人がいろいろ世話してくれているんだね。

爺: 子供たちのためにトンボやホタルなど生きもの観察会をやってくれているんだ。1年に3回もボランティアのおじさんおばさんが草刈りや畔直しをしてくれているんだ。イノシシに池の堤が壊され、ヤゴ(トンボの幼虫)がうまく育たなかったこともある。滝ヶ原だけでなく、日本全国でイノシシやシカさんたちのいたずらに困っているんだ。どうしたら仲良く暮らしていけるかねえ。

孫: みんなで工夫していくって大事なことだねえ。爺ちゃん。

爺: 県庁や市、小学校や大学、会社や地域の人たちが協力いろいろ工夫をしているんだ。5月22日は国際連合が生きものと仲良くしようと決めた日なんだ。石川県立大学の学生さんが生物調査してくれているんだ。ホトケドジョウという希少生物も中ノ谷上流でも発見されたという報告もあったよ。



休耕田の整備と観察会
山下豊さん提供

石川県立大学ビオトープ研究会 田中真織さんからのメッセージ

滝ヶ原のような里山地域には数多くの生物が生息しています。里山とは雑木林、農地、草地、ため池などの生態系の複合体で、このような環境は定期的な整備により成り立っています。しかし、現状では多くの里山地域が過疎化により整備が行われずに衰退しています。そんな中、滝ヶ原では地域の方々を始めとした多くの方の協力により里山としての環境が維持されています。私たちも微力ではありますが滝ヶ原での活動に協力させていただきます。

5-1 ふるさとの歌 を 歌い継ぐ

ふるさとの歌づくり秘話 歌づくり実行委員会メンバー 生水茂さんの思い出

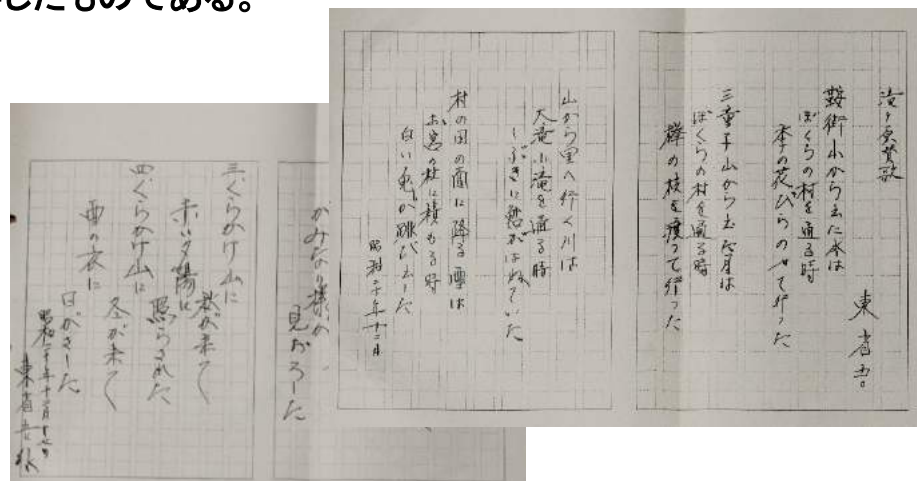
「約65年前地元で親しまれていた歌があったはず。児童が学校通いの道々口遊んでいたという。しかし、年月とともに、いつしか忘れ去られていった」と那谷町の宮崎貴之さんに教えてもらった。当時の情景を描写している歌がこのまま廃れてしまうのは惜しいと、地域の賑わいを願う住民らが、ふるさとの歌づくり実行委員会を立ち上げCDを制作することにした。

作詞は、2曲とも元那谷小学校の東省吾先生、いずれの曲も音源、譜面がなく、歌の復活は簡単ではなかったと思う。『滝ヶ原賛歌』は、昔の記憶をもとに滝ヶ原町山下雄範さんがハミングした曲を那谷町出身作曲家山口順一郎さんに譜面起こしと編曲をお願いした。『くらかけ山』は、山口順一郎さんに作曲をお願いした。山口順一郎さんは、プロ作曲家として活躍されているにもかかわらず、快く作曲・編曲及び那谷小学校児童の歌唱指導も行ってくれた。

できあがった里山ソングは、開設まもない中ノ峠ミュージック・ラボで録音され、念願のCDという形で、滝ヶ原町に残り歌い継がれている。里山の風景を十分楽しめるCDジャケットは、加藤章子さんにお願いしたものである。



那谷小児童によるCD作成



滝ヶ原賛歌 作詞 東省吾 作曲不詳 編曲 山口順一郎

鞍掛山から出た水は ぼくらの村を通る時
李(すもの)の花びらのせて行った
三童子山から出た月 ぼくらの村を通る時
櫟(けやき)の枝を渡って行った
山から川へ行く川は 大滝小滝を通る時
しぶきに鮎がはねていた
村の田の面に降る雪は お宮の杜に積もる時
白い兎が 跳び出した

くらかけ山 作詞 東省吾 作曲 山口順一郎

くらかけ山に 春が来て こぶしの花が 咲きました
くらかけ山に 夏が来て かみなり様が 見下ろした
くらかけ山に 秋が来て 赤い夕陽に 照らされた
くらかけ山に 冬が来て 雪の衣に 日がさした

原稿用紙には、昭和20年12月17日と日付けがあります。敗戦後わずか4ヶ月です。空腹を満たすため、さつま芋の蔓をおかゆに入れ、河原で採った野蔕を干して食べた混乱の時期でした。きっと東先生は、打ちひしがれた心を元気にし、ふるさとを奮い立たせようと懸命に作詞されたのだと感じます。歌い継がれている村の歌は貴重な宝物です。

5-2 クエスチョン ふるさと滝ヶ原から世界の友へ

滝ヶ原の入口には「鞍掛山アーチ型石橋由来碑」が目に入ります。水と環境・景観を大切に地球を守ろうを合言葉にしています。



設立 平成24年(2012) 7月14日 除幕式

碑文

右側 : 掛山・三童子山から注ぐ水はアーチ型石橋に流れそして日本海を経て地球全体へつながっています。滝ヶ原町では、環境・景観を大切に、自然と共存、共生を全世界へ発信するため、この碑を設置します。

正面の形容 : 上は鞍掛山でその下はアーチ型の石橋で、その下の長い石は地球を表しています。

左側の図柄 : トンボの楽園のハチチョウトンボ、鞍掛山のササユリ・ウサギなど環境を守る意味が込められています。

未来へ 研究者としての天皇陛下講演録より

今、国際社会では「水、食料、エネルギー、自然生態系のつながり」が提唱され、分野横断連携の重要性が叫ばれています。水にかかわる人々が他分野の人々と密接に連携することで経済と社会の発展に向けた新たな展開が開けて来るでしょう。水にかかわる人々は、ジェンダー、教育、難民、移民、貧困などの重要な問題に取り組む人たちとの対話を積極的に行っていく必要があります。
(北陸中日新聞より)

今、SDGs(Sustainable Development Goals持続可能な開発目標)という言葉を目にする機会が増えてきました。飢餓・貧困をなくし、自然を大切にすることなど17項目の目標が示されています。

私たちはずうっと昔々から平和を目指してきました。日本はトンボの国でした。人々は蛍や蝶など小さき者たちへの優しい眼差しを注いできました。(万葉集舒明天皇) 604年聖徳太子の17条憲法には、「以和爲貴 平和を何よりも大切に、けんかをしないように心がけなさい」とあります。その後も、大地震や天然痘で多くの人々が困難に出会っていました。743年聖武天皇は盧舎那仏(奈良の大仏)を造る宣言文で「万代までの幸せを願う事業を行って、草、木、動物、生きとし生けるものことごとく栄えんことを望む。ひと枝の草やひと握りの土であってもささげて造立の助けを願うみんなを受け入れよう」と全国民に呼びかけました。現代まで受け継いできた思い、そして未来へ向かっての思いが石碑に込められています。



みなさんのふるさとの宝物は？

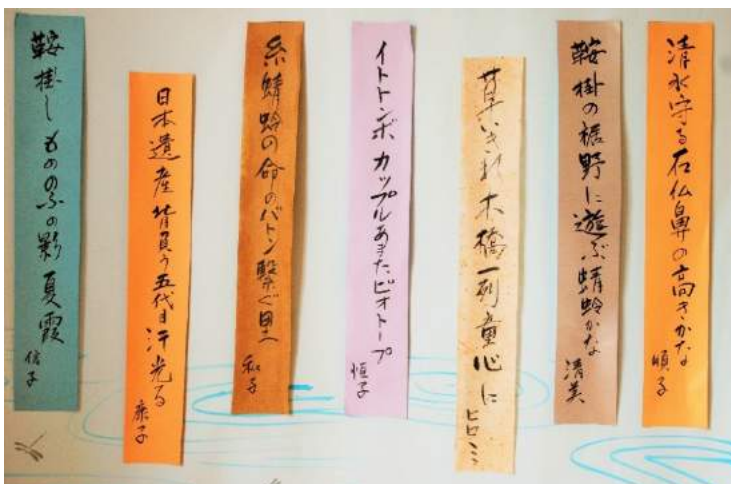
滝ヶ原が大切にしている歌と石碑を紹介しました。みなさんがいつも心に思い出すふるさとを紹介してください。仲間と遊んだ山、川そして海、歌やお祭り、トンボやカエル……。

5-3 クエスチョン あなたのスローライフは？ あなたの作品で暮らしに潤いを

自然学校には、みなさんが詠った俳句、生きものたちの絵画、息を凝らして撮った写真などの傑作が展示されています。観ると気持ちが安らぎ、観ていただけるだけでうれしくなります。今世間では、スローライフと言われていますが、ここ滝ヶ原では、何も言わなくてもゆったりと時は流れています。そんな楽しい作品で壁面を飾りましょう。

竹川さんは、「仲間たちが集まって、四季折々の俳句を作り、それを発表できる場があることは大きな刺激になります。最近、俳句のファンが多くなってきています。俳句と写真のコラボですよ」とおっしゃっていました。加藤さんの絵と共に、「俳絵」というのもあり得るのかなあと思いました。

留学生を那谷寺に案内した時、彼女が俳句を作りました。ラオスはまだ、法体系が十分でないので、今日本で懸命に勉強しているとのことでした。「蝉しぐれ 聞いてラオスの 国づくり」若いエネルギーに満ち溢れた句が今も忘れられません。(笹原)



那谷寺第十六世住職 木崎馨山さんに命名をお願いした「山の学校 鞍掛山」を建てようと頑張っています。(2020.10.25谷本県知事を迎えて落成式がありました) 加藤章子にイメージ図を描いていただきました。ふるさとの歌のCDからも、すがすがしい風と懐かしさでいっぱいです。

竹川信子さんからのメッセージ

俳句には季語があります。季語のない句もありますが、それはベテランの句です。歳時記の中から季語を見つけたら、それを持って滝ヶ原の里を歩くのがいいですね。山里の四季には、日本の原風景があります。転がっている句の素材を見つけるのも楽しみです。



俳句、絵画、野鳥の写真、ひとりひとりの楽しみがあります。是非、聞かせてください。



加藤章子さんからのメッセージ

私にとってのスローライフとは、滝ヶ原の豊かな自然の中で、大好きなアートに携わりながら暮らすこと。実は、この土地の素晴らしさは我が家に滞在中の東京の子たちに教わりました。気づかせてくれたことに心から感謝です！

6-1 滝ヶ原で滞在して、ゆったりと過ごす時間を (スロートーリズム)

私たちは、里山の自然と伝統石文化など貴重な地域資源を活用して体験型イベントを開催し訪問していただいた方々に喜んでいただいています

ホタル観察会 山菜ウォーク体験 田植え体験 鞍掛山観察会
和紙作り体験 星座観察会 石の彫刻体験 石文化散策ウォーク

さらに、滝ヶ原と周辺の地域との連携し滞在型・体験型メニューを開発していきたいと考えています。
苔の里、那谷寺、粟津温泉及び安宅の関と組み合わせ
北前船と橋立沖からの舟見岳遠望 など。

地域振興に熱心に取り組んでおられる内木洋一さんに「これからの旅」をお聞きしました。
スロートーリズムという言葉があるのですが……ヨーロッパを中心に、消費を前提とした旅行から、自分の嗜好に合わせて時間を使う滞在型旅行へと変わってきているんです。知らない土地で過ごす、住民とのふれあいを体験する、心の健康を満たしたいという欲求が強くなってきています。生活体験を通じて風土を理解したい 欲求とも言えます。
若い人が多いようですが……畑や田んぼでの野菜作り、ピザを焼いたり陶芸を楽しんだりいろいろのスタイルがあります。若い人達はもちろん多いのですが、家族連れやお年寄りもたくさん来てくれています。外国からは1週間以上滞在している人もいます。



若人・家族連れ・お年寄りも交流を楽しむ

内木さんから 施設紹介メッセージ

滝ヶ原町に2016年の春に生まれた滝ヶ原ファームは、カフェと宿泊環境を伴った農的なコミュニティです。カフェでは敷地内で自然な方法で育てた野菜を使ったメニューが提供され、週末には多くのお客さんで賑わっています。滝ヶ原石を使った石蔵は民泊施設として使われており、他では得られない宿泊体験を提供しています。2020年7月からはホステルも新たに開業し、日本を代表する農的なコミュニティに育っています。



バングラディッシュの子ども達との交流 や タイのヤシの実落としのおじさんとの楽しみ



襟裳岬を旅した時、森進一さんの「襟裳の春は何もない春です…」と流れていました。店のおばさんは反発して、「襟裳にはうまい空気と自然がいっぱい」と自慢していました。タイのプーケット島で3泊しました。案内してくれたタクシーの運転手は「日本人はせっかちなあ。せめて2週間は楽しんでくれ」と迫りました。大型バスでハローグッドバイの旅、気に入って長期間過ごす旅、旅の楽しみ方は人それぞれと言いますが、ここ滝ヶ原では、ゆったりと時間を過ごしてほしいと思います。

里山自然学校こまつ滝ヶ原は2011年(平成23年)7月に設立され、旧那谷小学校・保育所の建物をリニューアルして活用しています。

活動分野を「塾」と呼び、少しずつ活動を広げ、現在10分野になりました。

今後県内はもちろん国内外の諸団体との連携(パートナーシップ)強化も目指したいと計画しています。

生

概要

キーワードは「山・水・緑」。鞍掛山と、石橋の下を流れる川、そして豊かな緑……。この滝ヶ原を拠点に、植物観察会や登山などを通して、子供から大人まで多くの人に動物や植物とふれあう体験をしていただき、「自然の中の命」に興味をもってもらえと願っています。また、大学などとも連携して環境保全の様々な活動にも力を注ぎ、生物多様性が持続できる生態系モデルを皆さんと共につくっていききたいと思っています。

活動内容

- ホタル観察会
- 鞍掛山環境整備
- ポテンティ活動
- 里山の草木観察会
- 里山食事交流会
- トビの保護活動



里山生き物調査塾

友

概要

SATOYAMAにはたくさん宝物があります。石橋や山や川、そして毎日の暮らし。知っていることも知らないことも。世界の友達と一緒に学び、楽しみの場を広げていきましょう。在住外国の人々や外国からのお客様との交流から生き生きとした滝ヶ原が生まれます。子供達とファミリー、若い若きも、みんなで参加できるように行事も企画していきましょう。

グローカル推進塾

活動内容

- 外国人にもわかるSATOYAMAガイドの作成や広報活動
- 里山と世界を結ぶ交流会や国際イベントの企画・参加



SATOYAMA

環

概要

一般にバイオマス利用と書けば地産地消や再生エネルギー利用です。しかし私たちはエネルギー以外にもバイオマス利用を目指します。バイオマスを一旦炭にする事で、エネルギー以外の農業、廃棄物処理、資源循環(水質浄化)などに貢献できます。原料も、木、竹、薪炭などドライバイオマスの他に、汚泥、生ゴミ、各種廃棄物のウェットバイオマスも有効活用できます。日本では当たり前になっている技術も、根本から見直し取り組みも展開します。

バイオマス資源活用塾

活動内容

- バイオマス資源活用塾とエネルギー・環境について幅広く知識を身につける
- 有機質肥料の製造・バイオマス燃料の製造
- 小松市独自のバイオマス利用技術検定・バイオマス・薪炭・生ゴミなど



農

概要

「本当に美味しく安心な野菜」を求めて、農業や化学肥料は一切使用しない手作りのボカシ肥料等を使い、様々な旬野菜を年間を通じて栽培。実際に、野菜作りや収穫体験なども盛り込んだ外遊をテーマとした里山イベントも年間を通じて開催します。また、新作販路地となった農地を再活用して新たな野菜づくりや商品づくりを手掛けていくことで地元の生産に繋がればと思います。

里山エコアグリ塾

活動内容

- 有機野菜づくり体験
- 外遊をテーマとした里山イベント開催(野菜収穫体験や料理人とのコラボ)
- 地元産物づくり



食

概要

食べることは楽しいこと。小松の里山伝統料理、保存料を地元の食材と調味料と研究し、里山の恵みを子供たちに伝えていきたいです。「自分たちが楽しく暮らすための食」をテーマに、地域内外の人たちと交流を行い、普段の「あかす」はもちろん「スイーツ」から「お父さんのあつまみ」まで幅広く提案します。地産地消メニューの開発や料理教室などを通じて、地元の宝物を再発見し、発信していくのが、この塾の役割です。

里山グルメ開拓塾

活動内容

- マミヤに研究会
- 里山の山菜採集
- 味噌づくり教室
- 梅干し漬物づくり



和

概要

全国各地で大きな被害を出している獣害問題。各地で対策がなされる一方で、問題解決に向けた決定打は出ていません。そこで当塾では「共生」というキーワードを掲げて活動を開始していきます。関係とされがちな共生への道。獣の命を奪わずに共生できればそれに越した事はありません。加害獣の生態や行動を正しく理解することで有効な対策を実施し人と獣が共生できる道をみなさんと考えていく場になりたいと思っています。

活動内容

- 大型獣(狼・熊)を中心とした生態の調査
- 有害な獣害防止
- 被害に遭いやすい作物・環境の調査



里山アニマル共生塾

商

概要

地元の文化を大切に、それを生かしたクリエイティブな暮らしこそ、これからの理想的なライフスタイルではないでしょうか。小松市は国内外からの交通アクセスもよく、自然と暮らす文化が継承されています。この地こそ「自然と共生する持続可能な社会」のモデルケースになる！動では快適なライフスタイルを提案しながら、里山ビジネスの創出に取り組みしていきます。皆さん、里山で起業していきましょう。

里山ビジネス創出塾

活動内容

- 里山資源を活用したビジネス創出の提案
- ビジネスを通してコミュニティづくり支援



案

概要

里山には美しい自然環境と人々の生活の知恵など、街中では感じることができない魅力が多く詰まっています。また、山や川、文化など個性を捉えて見つめ直すと、新たな価値を創出できます。エコゾブーム支援塾では、地域資源を活用した農村の新しいライフスタイルの探求と実践を繰り返して、都市住民向けに農村滞在型ツーリズムを確立し、里山の体験や滞在を通じた魅力づくりを支援します。子供に合った気持ちで存分に楽しめる場所を提供したいと思っています。

里山ツーリズム支援塾

活動内容

- 地域資源を活用したツーリズムの提案
- ワークショップの開催等



交

概要

里山には特徴的な地域資源が数多くあります。里山体験交流塾ではこれら地域資源を活用して、「体験と交流で育てよう心と体」をキーワードに活動を行います。里山の達人を講師としての各イベントの開催や、里山農業との合同企画、地域の歴史、文化を学べる体験教室など、里山フィールドに飛び出し、地元住民との「交流」を深めることをメインとした各種イベントを企画します。

里山体験交流塾

活動内容

- 里山の押し花作り体験
- 「元気でカエル」をテーマとしたワークショップ
- 里山環境観察会
- 里山の山菜採集
- おもちづくり体験
- おもちづくり体験



地

概要

地産地消をコンセプトに、里山で採れた山菜や地元農家が生産した野菜などを活用して、お客さんに喜んでいただける里山料理を提供します。また、塾の活動に合わせて定期的に食事を開いたり、外組団体や地元産材を利用して考案した商品を里山食堂の新たな名物として販売しています。運営については地元町内会が中心になって行っており、里山産物の「おいしさ」を利用者に届けます。

里山食堂

活動内容

- 里山食堂(月2回)第2・4土曜
- ※イベントの状況に応じて開催



滝ヶ原地区を盛り上げようという工夫を続けています。
「いきものずかん」を作成しました。「里山通信」第1号も完成し
住民はもとより支援してくださっている方々にも配布しました。
これからも、皆さま方の一層のご支援を期待しております。



こまついきものずかん 発行



里山通信 第1号 発行

【連絡先】

こまつSATOYAMA協議会
☎: 0761-24-8078
✉: k-okoku@city.komatsu.lg.jp
HP: <https://satoyama-komatsu.com/>

訪問メモ